

1 高齢社会の現状

1 世界に例を見ない「超高齢社会」

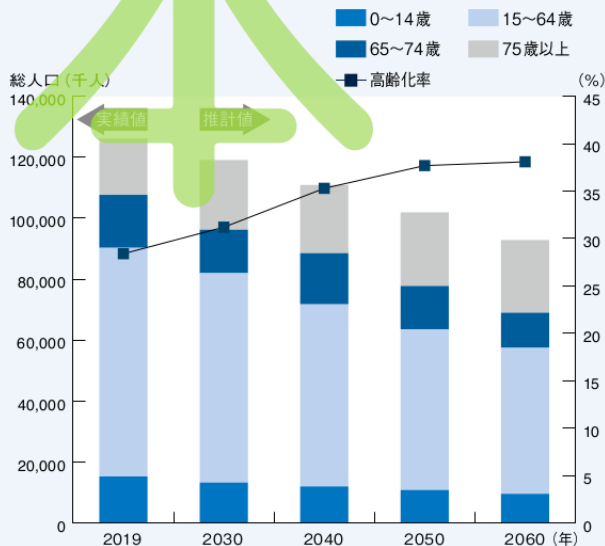
2020（令和2）年9月現在、日本の総人口は1億2,586万人で、前年に比べ29万人減少している一方、65歳以上の高齢者人口は3,617万人と、前年に比べ30万人増加し過去最多となりました。高齢化率は28.7%と、4人に1人以上が高齢者となっています。

総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950（昭和25）年以降一貫して上昇が続いており、第二次ベビーブーム期（1971～1974年）に生まれた世代が65歳以上となる2040年には35.3%と、3人に1人が高齢者になると見込まれています。世界に例を見ない水準の高齢化が進む、「超高齢社会」が到来しているのです。

「高齢化社会」と「高齢社会」

65歳以上の高齢者が総人口に占める割合を高齢化率といます。一般的には、「高齢化社会」とは高齢化率が7%から14%までの社会を、「高齢社会」とは同率が14%から21%までの社会を指し、同率が21%を超えた社会を「超高齢社会」と呼びます。

年齢区分別将来推計人口



内閣府「令和2年版高齢社会白書」を基に作成